参考資料１

“助け合い”除雪
取組事例集

平成29年3月　国土交通省 国土政策局 地方振興課

※この事例集は「平成28年度　雪処理の担い手の確保・育成のための克雪体制支援調査」に取り組まれた11地域の活動を紹介したものです。

掲載事例一覧

No.	活動地域	事例名	事例の分類
事例１	北海道岩見沢市	異文化交流×除雪ボランティア	交流、担い手づくり
事例２	北海道上富良野町	かみふらのスノーバスターズ	安全対策
事例３	北海道苫前町	流雪溝による地域活性化ケーススタディ	交流、担い手づくり
事例４	青森県弘前市	市内学生ボランティア連携	共助除雪体制、担い手づくり
事例５	岩手県滝沢市	上の山まごころ除雪隊の自走化	共助除雪体制、担い手づくり
事例６	山形県鶴岡市	S.S.S.を介した“労力交換”事業	交流、共助除雪体制
事例７	山形県酒田市	日向ささえあい除雪ボランティアの深化	共助除雪体制、担い手づくり
事例８	群馬県榛東村	地域内外の除雪ネットワークづくり	共助除雪体制
事例９	福井県福井市	みやま雪普請隊	共助除雪体制、交流
事例１０	長野県長野市	鬼無里　Pride　Project	共助除雪体制、担い手づくり
事例１１	島根県飯南町	スノーレンジャー	共助除雪体制、担い手づくり

掲載事例の活動地域

事例③ ＜北海道苫前町＞
流雪溝による地域活性化ケーススタディ

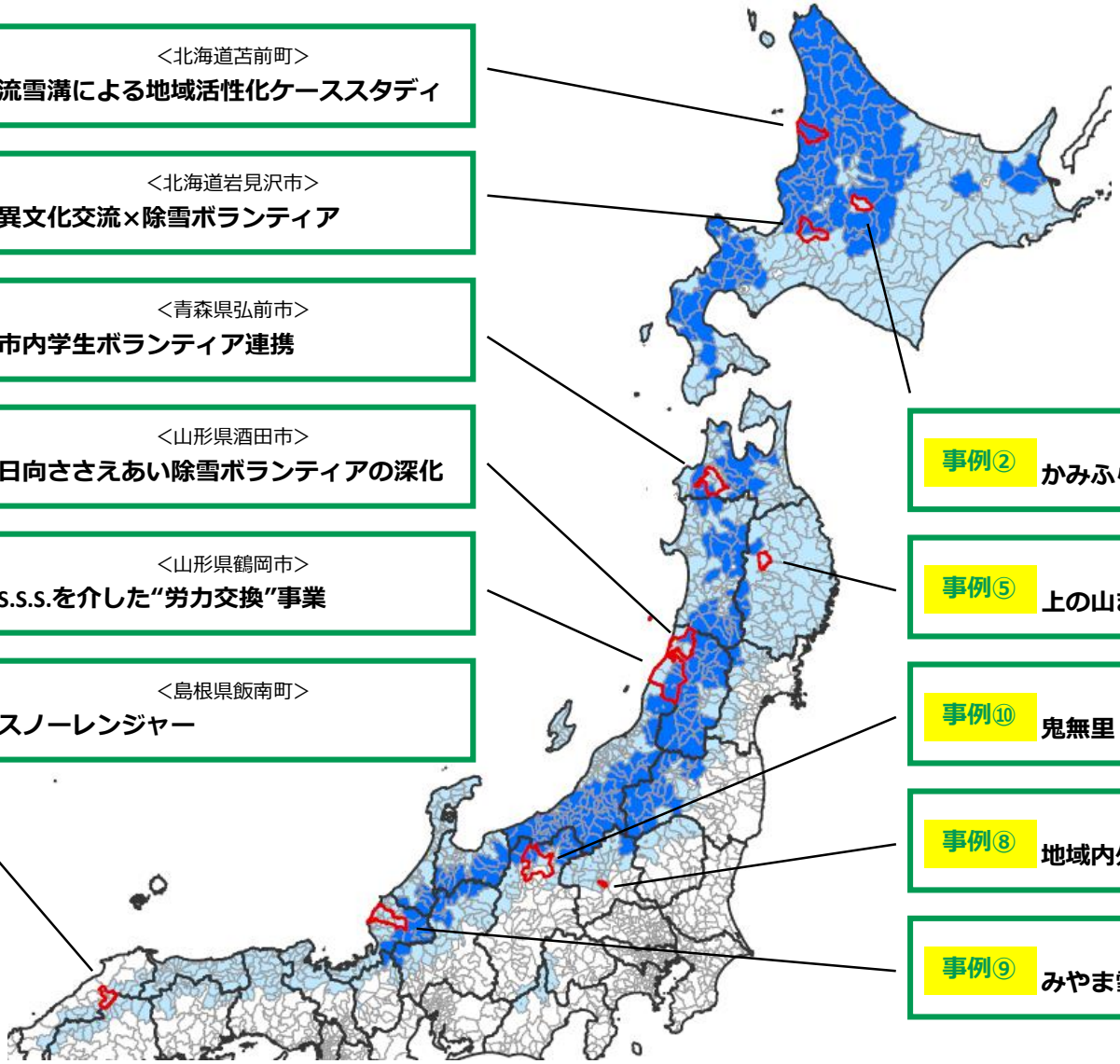
事例① ＜北海道岩見沢市＞
異文化交流×除雪ボランティア

事例④ ＜青森県弘前市＞
市内学生ボランティア連携

事例⑦ ＜山形県酒田市＞
日向ささえあい除雪ボランティアの深化

事例⑥ ＜山形県鶴岡市＞
S.S.S.を介した“労力交換”事業

事例⑪ ＜島根県飯南町＞
スノーレンジャー



事例② ＜北海道上富良野町＞
かみふらのスノーバスターズ

事例⑤ ＜岩手県滝沢市＞
上の山まごころ除雪隊の自走化

事例⑩ ＜長野県長野市＞
鬼無里　Ｐｒｉｄｅ　Ｐｒｏｊｅｃｔ

事例⑧ ＜群馬県榛東村＞
地域内外の除雪ネットワークづくり

事例⑨ ＜福井県福井市＞
みやま雪普請隊

事例1

異文化交流×除雪ボランティア

北海道岩見沢市

ポイント

●外国人留学生を対象に、除雪ボランティア活動を日本の異文化交流アクティビティとして提供

●餅つき大会、小学校訪問、温泉なども組み合わせ、参加者と地域住民が交流する場面を多数創出

実施主体	株式会社北海道グローバルリンクス 〔活動地域：岩見沢市〕
自治体	北海道岩見沢市　人口：5,444人（増減率：-12.1%） （旧栗沢町）　世帯数：2,123世帯（増減率：-9.5%） ※平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値－H22の値）÷H22の値
きっかけ	●岩見沢市美流渡地区では、過疎高齢化による除雪問題の解消のため、同地区町内連合会が中心となって、平成25年冬期から札幌市発着の除雪ボランティアバスツアーの受け入れを行っている。 ●株式会社北海道グローバルリンクスは、運営する日本語学校において、日本語の授業だけではなく、日本の伝統文化を体験するイベントやアクティビティーツアー等を外国人留学生に提供している。 ●日本を体験するプログラムの一環として、岩見沢市美流渡地区の協力のもと、除雪ボランティア活動を通して地域社会の人々との新たな異文化交流を行う機会を提供する。
取組内容	●美流渡地区では、外国人を受け入れた経験がないため、地域住民を対象に、外国人との接し方（話し方、コミュニケーション方法など）を学ぶ「外国人受入セミナー」を事前に開催した。 ●外国人留学生による除雪ボランティアツアー（雪かき体験＆餅つき大会、計25人参加）を開催した。一人暮らしの高齢者宅の雪かきを行い、参加者のほぼ全員から満足と評価された。
主な成果	●除雪ボランティア活動は、外国人留学生にとって魅力的かつ教育的なアクティビティであることを確認できた。 ●外国人を受け入れた地域においても、青年層や子どもたちの参加が促進されるなど、活動に関わる人の層が広がった。

外国人受け入れセミナー

除雪作業後の記念写真

Activity

雪かき体験
＆餅つき大会
Let's join a Snow
Moving Event

1月28日（Sat）
8:00～19:00

北海道の田舎から特別ご招待!!!!
地元の人と雪かき体験、餅つき大会、ランチ交流会、温泉にも入って北海道の生活を満喫しよう♪

We've been invited to go and take part in an event in the Hokkaido Countryside!! Let's move snow, take part in traditional mochi pounding, join a lunch party and go to an onsen! A epic adventure day!!

日にち (Date)：28th of Jan(Sat)
時間 (Time)：8:00～19:00
料金 (Fee)：無料 Free
集合場所 (Meeting Place)：JaLS Lounge
出発時間 (Departure Time)：8:00

予定 (Schedule)
8:00 学校出発 Leave school
10:00 栗沢町到着 Arrive in Kurisawa
10:30 雪かき体験 Snow Moving
12:30 餅つき＆ランチ Mochi pounding and lunch
16:00 温泉 Onsen
17:35 栗沢町出発 Leave Kurisawa
19:00 学校到着 Arrive at school

注意事項(Notes)
雪かきをしますので、濡れない服、濡れない靴、暖かい服で来てください。温泉に入りたくない人は事前に教えてください。
Please bring waterproof and warm clothing for snow shoveling. If you don't want to go to the onsen, please let us know in advance.

除雪ボランティアツアーのチラシ

餅つき・餅まき・小学校訪問

事例 2

かみふらの スノーバスターズ

北海道上富良野町

ポイント

●以前から続いている大人数の一斉除雪活動について、除雪安全の意識と技能を定着化

●安全な雪下ろしのための手順やノウハウをまとめた安全啓発用DVDを制作

実施主体	上富良野町社会福祉協議会 〔活動地域：上富良野町〕
自治体	北海道上富良野町　人口：10,826人（増減率：-6.2%） 世帯数：4,363世帯（増減率：-1.2%） ※平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値－H22の値）÷H22の値
きっかけ	●上富良野町社会福祉協議会は、平成５年より独居・虚弱高齢者世帯者が冬を快適に過ごせるように、自衛隊「曹友会」をはじめ町内の団体による屋根の雪下ろしボランティアを毎年行っており、各企業・中学校・高等学校など参加団体及び参加者も増加している。 ●平成27年度の当調査事業の採択を受け、除雪機材や安全機材の購入と除雪安全研修会を開催しており、除雪作業中の安全や事故防止について、関係者や住民の意識が高まっている。 ●除雪作業の安全性と効率性をさらに高める必要性を感じていた。
取組内容	●保安帽、シットハーネス・ザイル、穴あきスコップ、カラビナなどの除雪機材を購入・配備した。 ●スノーバスターズ研修会2016を開催し、雪下ろし事故の状況、安全対策、屋外実技（アンカーの確認、はしごの昇降、命綱とハーネスの着脱、ロープの結び方）を学んだ。 ●地域除排雪活動（一斉除雪）を実施した。16団体、606名が参加。 ●除雪作業時における安全啓発用DVDを制作した。
主な成果	●毎年実施している一斉除雪活動に「安全性」の視点を取り入れ、事故防止のための学びの機能を付加することができた。 ●除雪安全研修会の内容を記録・編集し、安全な雪下ろしを普及させるための安全啓発用のDVDを完成させた。

購入・配備した主な除雪機材

一斉除雪作業

除雪安全研修会

除雪ボランティア出発式

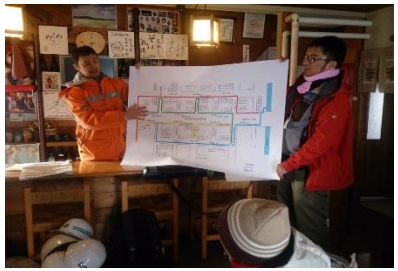
事例3 流雪溝による地域活性化ケーススタディ

北海道苫前町

ポイント

- 高齢過疎化に伴う流雪溝の課題解決に、地域外からの除雪ボランティアツアーを活用
- 流雪溝利用の実態や住民の意識を詳細に調査・把握し、流雪溝利用における協働のあり方を検討

実施主体	苫前町まちづくり企画 〔活動地域：苫前町〕
自治体	北海道苫前町　　人口：3,265人（増減率：-10.7%） 世帯数：1,420世帯（増減率：-6.6%） ※平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値－H22の値）÷H22の値
きっかけ	●苫前町古丹別地区は、高齢過疎化の影響で流雪溝の利用可能者が減少し、冬道のバリアフリー化が損なわれている状況にある。流雪溝も供用から約20年が経過しており、老朽化が進んでいる。 ●北海道内各地で札幌発着型の「雪はねボランティアツアー」が実施されており、同地区においてもボランティア活動による都市農村交流の実施を模索していた。 ●ツアーの経験とノウハウを有する（一社）シーニックバイウェイ支援センターと連携し、流雪溝の利用促進の視点も踏まえ、広域的除雪ボランティアを受け入れることにした。
取組内容	●古丹別地区の流雪溝沿道及び周辺住民に対するアンケート調査を実施するとともに、沿道住民の流雪溝利用状況を観察し、実態を把握した。 ●「流雪溝を考える会」を立ち上げ、苫前町まちづくり企画、流雪溝管理運営協議会事務局、道路管理者、シーニックバイウェイ支援センターとで協議を重ねた。 ●「苫前町雪はねボランティアツアー」を企画・実施し、古丹別地区において、札幌等の道内都市圏からの除雪ボランティアによる流雪溝投雪活動を行った。
主な成果	●流雪溝をきっかけとして地域の課題が明らかになり、沿道住民と道路管理者による協働の気運が高まった。 ●除雪ボランティアの受け入れを通じて、流雪溝利用の活性化に向けたアイディアと今後の展開案が多数生まれた。



流雪溝の概要説明

投雪溝の掘り起こし作業

雪はねボランティアツアーのチラシ

流雪溝への投雪作業

除雪作業後の記念写真

事例 4

市内学生ボランティア連携

青森県弘前市

ポイント

●弘前市内6大学の連携による「オールひろさき」の学生除雪ボランティア体制を目指す

●豪雪を災害としてとらえ、防災・減災を進めている団体が先頭に立って除雪安全講習を実施

実施主体	弘前市防災マイスター連絡会 〔活動地域：弘前市〕
自治体	青森県弘前市　人口：177,411人（増減率：-3.3%） 世帯数：71,152世帯（増減率：1.4%） ※平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値－H22の値）÷H22の値
きっかけ	●弘前市は、青森県内有数の豪雪地帯であり、少子高齢化に伴って住民視点に立った克雪体制づくりが急務となっている。特に大学が多数立地している地域特性を活かした対策が求められている。 ●平成24年度より、弘前大学ボランティアセンター、地元町会、弘前市道路維持課が連携し、毎年、弘前市内の小学校通学路の歩道除雪（ボランティア）を実施している。 ●この活動に参加する学生を拡大するため、弘前大学のみでなく、市内6大学が参加している「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」と連携して学生ボランティア除雪を展開する。
取組内容	●学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムを通して、ポスターやチラシを配布するなどして、オールひろさきによる除雪ボランティアを募集し、流雪溝のある通学路でシーズン3回の歩道除雪を実施した。 ●除雪活動の前に、事前準備会議を2回、活動終了後にふり返り会議を1回開催した。 ●ボランティア除雪の活動と合わせて、弘前市防災マイスター連絡会が中心となって、安全に除雪作業を行うための講習を実施した。
主な成果	●市内6大学の学生による除雪ボランティア体制の足掛かりができ、活動を通して雪かきのノウハウ（10箇条）や流雪溝の効率的な利用のコツを整理することができた。

除雪ボランティア募集チラシ

流雪溝投雪カレンダー

歩道除雪の安全講習

流雪溝への投入作業

除雪ボランティアの記念写真

事例 5

上の山まごころ除雪隊の自走化

岩手県滝沢市

ポイント

●住民主体となった除雪に切り替えることで、きめ細かな除雪と住民満足度の向上が実現

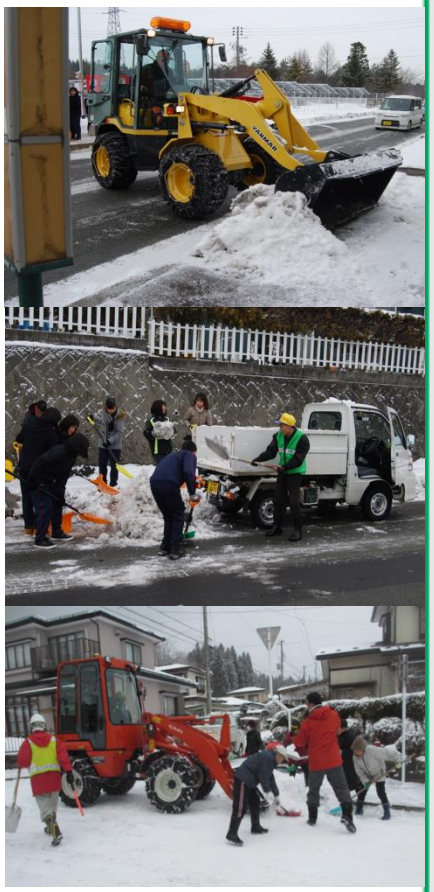
●除雪協力金（世帯負担）、行政・業者との連携により、補助金に頼らない除雪隊の仕組みを構築

実施主体	滝沢市上の山自治会 〔活動地域：滝沢市〕
自治体	岩手県滝沢市　人口：55,463人（増減率：3.0%） 世帯数：20,787世帯（増減率：7.1%） ※平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値－H22の値）÷H22の値
きっかけ	●滝沢市上の山自治会では、行政・業者任せの除雪から住民主体となった除雪へと転換することを目指して、平成26年度、27年度と2か年続けて当調査事業を活用し、圧雪・凍結のない生活道路の確保と地域独自の排雪事業に取り組んできた。 ●まごころ除雪隊の活動として、住民の初期除雪効果の拡大、雪の出し方の改善、住民協力の拡大、業者とのより良い協力関係の確立が課題となっている。 ●今後を見据えて、これまでの活動をさらに進化させ、国土交通省からの補助なしでも継続できる仕組みづくりに取り組むことにした。
取組内容	●除雪協力金を各世帯から徴収するなどして、上の山まごころ除雪隊として独自財政基盤を確立した。まごころ隊員への謝金や備品の交流に活用。 ●市・業者と自治会とで連携協働体制をつくり、重機による生活道路の除雪作業を行った。出動日数35日、実働時間524時間、従事人数156人。 ●特に初期除雪を強化し、凍結・圧雪のない道路を維持することで、高齢者の転倒防止を図った。また、除雪日と排雪日を区分けをし、住民が雪出しに協力しやすいようにした。
主な成果	●上の山自治会と滝沢市との連携が強化され、まごころ除雪隊も参加者が増え、自治会に不可欠な事業として定着してきた。 ●上の山まごころ除雪隊をモデルとして、他の自治会でも同様の取組が始まった。

確保した除雪車

上の山まごころ除雪隊メンバー

他の自治会でもはじまった除雪ワークショップ



上の山まごころ除雪隊の活動

事例 6

S.S.S.を介した“労力交換”事業

山形県鶴岡市

ポイント

●結の精神に着目し、お互いが力を貸しあう「労力交換」を除雪活動に適用

●年間を通じた地域間交流による地域活性化のきっかけとして実施

実施主体	鶴岡市三瀬地区自治会 〔活動地域：鶴岡市〕
自治体	山形県鶴岡市　人口：129,652人（増減率：-5.1%） 世帯数：45,339世帯（増減率：-0.4%） ※平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値－H22の値）÷H22の値
きっかけ	●平成25年度、26年度の当調査業務にて、除雪作業を有償で行うボランティアチーム「さんぜスノースイーパー（S.S.S）」を設立した。高齢者世帯であり自力での除雪作業ができない世帯に対して除雪作業を行ったり、集落内の冬期危険個所の巡視・対応を行う。 ●三瀬地区は、20%が75歳以上であり、人口減少や地域コミュニティの希薄化が進んでいる。特に毎年の事業運営が困難になりつつあり、作業人員やイベント参加者の確保に苦労している。 ●お互いの地域で実施可能な作業を「交換」することで、地域間交流が生まれることを期待した。
取組内容	●労力交換「労力輸入の作業」として、酒田市日向地区から三瀬地区に空き家の片付けに来て、家屋からのゴミの撤去、ゴミ袋への分別、粗大ゴミの搬出などを行った。 ●労力交換「労力輸出の作業」として、三瀬地区から酒田市日向地区に出向き、シーズンで2回、高齢者世帯の除雪作業を行った。 ●除雪機利用講習会を開催し、小型除雪機の管理規定の確認、操作の実地訓練を行った。
主な成果	●除雪を介した「労力交換」で地域間交流を行うという新しい事業を実施することができ、効果、課題、将来的な可能性を把握することができた。

労力輸入：空き家の片付け

労力輸出：高齢者世帯の除雪

初の女性隊員が誕生

婦人会の児童通学見守り隊
（今後の除雪作業への協力を期待）

事例 7

日向ささえあい除雪ボランティアの深化

山形県酒田市

ポイント

●雪かき道場、日向ささえあい除雪ボランティアの実施を通して、地域の人たちに様々な出番をつくる

●全国の取組から多くを学び、取り入れ、地域力の向上と助け合える関係づくりを実現

実施主体	日向コミュニティ振興会 〔活動地域：酒田市〕
自治体	山形県酒田市　　人口：5,903人（増減率：-9.4%） （旧八幡町）　　世帯数：1,824世帯（増減率：-4.2%） ※平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値－H22の値）÷H22の値
きっかけ	●酒田市日向地区は、過疎高齢化の進展により、地域住民だけでは十分な除雪支援が難しくなっている。特に積雪量が多い大台野地区と升田地区では対策が望まれている。 ●平成24年度より、地域住民と地域外のボランティアがともに除雪作業を行う「日向ささえあい除雪ボランティア」を開始している。 ●活動を継続するためには、除雪作業の安全管理を行う人材及び地域住民とボランティアの橋渡しをする人材を育成する必要があり、「越後雪かき道場」の協力を得ることとなった。
取組内容	●受け入れる地域の自治会長や関係者を対象に、「雪かき道場 in 酒田市日向」開催説明会を開き、越後雪かき道場の師範代から活動の意義、効果、運営ノウハウ等を伝授してもらった。 ●越後雪かき道場の協力のもと、雪かき道場 in 酒田市日向（初級コース・中級コース）を開催した。また、自分たちでも「日向ささえあい除雪ボランティア」をシーズン2回開催した。 ●安全帯、ヘルメット、ロープ、スノーダンプを購入し、安全器具を貸し出せるようにした。
主な成果	●地域住民の積極的な参加が見られ、若い世代の人材発掘につながった。リーダーの指導力がアップし、地域の受入体制や協力体制が強化された。

雪かき道場 in 酒田市日向 開催

雪かき道場初級コース

雪かき道場中級コース

全国での活動紹介

日向ささえあい除雪ボランティア 開催

事例 8

地域内外の除雪ネットワークづくり

群馬県榛東村

ポイント

- 「雪かき道場」の仕組みをアレンジして、地域の課題解決に応用
- 榛東村内のネットワークづくりと群馬県内の広域ネットワークづくりの２つを連動

実施主体	榛東村社会福祉協議会 〔活動地域：榛東村〕
自治体	群馬県榛東村　　人口：14,329人（増減率：-0.3%） 世帯数：4,887世帯（増減率：5.5%） ※平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値－H22の値）÷H22の値
きっかけ	●榛東村は、高齢者世帯等の冬の暮らしを見守りネットワーク活動の一環で支えているが、緊急時の対応と継続性が課題となっている。 ●平成26年2月の豪雪を教訓に、豪雪地域と非豪雪地域を繋ぐ広域的な連携を模索。降雪時だけでなく平常時から連携の重要性を認識し、緊急時の相互支援について考えていた。 ●冬期における除雪支援体制の構築に向けて、除雪支援体制の大枠を整理し、行政、関係団体、区長会などによる協議の場を設置し、ネットワークづくりを行いながら具体的な取組を進めていくこととした。
取組内容	●区長、民生児童委員、小中学校長・PTA役員、消防団、防災ボランティア、役場職員等からなる除雪支援体制ネットワーク会議を設置。全体会議等を通じて、地域の課題を共有し、必要な対策を考えた。 ●広域連携除雪支援体制ネットワーク研修会を開催し、片品村、榛東村、前橋市がそれぞれの強みを活かして広域連携を行う重要性を確認した。 ●片品村社会福祉協議会と連携し、片品村花咲地区において、上州雪かき道場を開催した。
主な成果	●積雪時の課題と今後の対策について検討し、共有されたことで、通学路の除雪など地域で自発的な活動が生まれた。 ●上州雪かき道場の開催を通して、群馬県内における広域連携を具体的に展開することができた。

除雪支援体制ネットワーク全体会議

除雪資材の準備

上州雪かき道場の開催

広域連携除雪支援体制ネットワーク研修会

住民支え合いマップづくり

事例 9

みやま雪普請隊

福井県福井市

ポイント

●都市と農村が支えあう関係づくりとして、除雪ボランティアに着目

●この活動を契機として、地域住民に対しても除雪安全の意識啓発を行う

実施主体	一般社団法人伊自良の里振興協会 〔活動地域：福井市〕
自治体	福井県福井市　　人口：4,097人（増減率：-9.6%） （旧美山町）　　世帯数：1,243世帯（増減率：-5.3%） ※平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値－H22の値）÷H22の値
きっかけ	●福井市美山地区上味見地域は、福井市街地などへの若者の流出により、高齢化率が60%を超えており、冬の雪下ろしや家屋周辺の除雪作業に伴う住民の負担が大きく、安心・安全な生活環境が保てなくなってきている。 ●伊自良の里振興協会では、これまでも上味見地区において、自然体験教室、遊休農地を活用した体験農場、高校生・大学生の受け入れなど、様々な交流活動を実施している。 ●雪の少ない福井市中心部と上味見地域とで、まちとむらで支えあう関係づくりを目指して、除雪ボランティアを行う「みやま雪普請隊」を結成することとした。
取組内容	●みやま雪普請隊の結成に向けて、チラシを作成・配布したり、ボランティアサイトで呼びかけたり、福井工業大学や京都産業大学に声掛けをするなど周知に努め、広くメンバーを募った。 ●除雪作業時の危険や安全対策について学ぶため、地域住民、除雪ボランティアを対象に、専門家を招いて除雪安全講座を実施した。 ●みやま雪普請隊としてシーズンで3回、高齢者世帯や公共施設（温泉施設）の除雪作業を行った。
主な成果	●除雪安全講座を通して、地域住民が除雪時の危険や安全対策を学び、完全管理の必要性を再確認することができた。 ●除雪ボランティアを初めて地域で受け入れることができ、活動を継続していく必要性を実感した。

メンバー募集チラシ

除雪安全講座

スノーシュー体験

みやま雪普請隊による除雪活動

事例 10

鬼無里 Pride Project

長野県長野市

ポイント

●地域の特性にこだわった鬼無里流の除雪安全マニュアル（手引き）を作成して全戸配布

●雪かき道場in鬼無里を2年連続で開催し、経験を重ねて、地域主体の継続的な活動を目指す

実施主体	鬼無里地区住民自治協議会 〔活動地域：長野市〕
自治体	長野県長野市　　人口：1,393人（増減率：-18.1%） （旧鬼無里村）　世帯数：645世帯（増減率：-10.2%） ※平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値－H22の値）÷H22の値
きっかけ	●鬼無里地区は、長野市で一番、高齢化率と人口減少が進んでおり、自力での雪かきも近所での助け合いも限界にきている。 ●そこで地区外からボランティアの受け入れ態勢をつくるため、越後雪かき道場の協力を得て、平成27年度に「雪かき道場in鬼無里」を開催し、参加者からも地元住民からも好評を得た。 ●地域主体のイベントとして継続・定着させていくため、雪かき道場の暖簾分けを視野に入れて、平成28年度に再度、「雪かき道場in鬼無里」を開催することにした。
取組内容	●地元師範の自覚とプライドを高めるためのスタッフジャンパーと、ボランティアスタッフ用ベストを製作した。 ●雪かき道場in鬼無里（初級・中級の2コース）を開催した。初級はスコップ、スノーダンプの使い方を学習し、高齢者宅の除雪作業を行った。中級はロープワークと安全帯の使い方を学習し、それらを使って屋根の雪下ろし作業を行った。 ●鬼無里流雪下ろし安全の手引きを作成し、地区の全戸に配布した。
主な成果	●安全な除雪作業について、鬼無里に合ったルールを作ることができ、ボランティアの受け入れ態勢も確立できた。 ●雪かき道場の開催を通して、地域力を再発見し、交流人口増加の可能性が見えてきた。

鬼無里流
雪下ろし安全の手引

制作したスタッフジャンパーと
ボランティアスタッフ用ベスト

貸し出し用安全帯

雪かき道場in鬼無里

事例 11

スノーレンジャー

島根県飯南町

ポイント

- 地域内相互協力と地域外交流の両方を目指す
- 地区内における除雪の助け合いを組織化し、依頼を受けてから出動するまでの一連の仕組みを作ることで対応力を強化

実施主体	スノーレンジャー 〔活動地域：飯南町〕
自治体	島根県飯南町（旧赤来町）　人口：2,766人（増減率：-10.0%） 世帯数：1,030世帯（増減率：-6.5%） ※平成27年国勢調査、増減率＝（H27の値－H22の値）÷H22の値
きっかけ	●飯南町谷地区は、公民館を中心に、スノーレンジャーとして17名の地域住民が配置されており、高齢者等から依頼を受けた際に、家屋周辺から主要道路までを除雪機を使用して除雪している。 ●年間で20件程度の依頼があるが、連絡体制、集合体制を整えていないため、各個人で対応しており、すぐには除雪に向かえない状況にある。 ●安全面においては、保険に加入しているだけであり、特別な安全講習などは受けていない。 ●以前、飯南町内の旅行会社が雪かきボランティアツアーを開催したことがあり、雪を活用した地域外との交流の拡大も期待されている。
取組内容	●スノーレンジャーの連絡体制として、公民館を中心にワンストップ窓口を整備し、そこから地区連絡員を通して隊員が出動する仕組みを作った。 ●スノーレンジャー登録者を対象に、講師を招いて小型除雪機械の運転・管理方法を学ぶ安全作業講習会を開催した。 ●除雪作業用のウェアー、長靴、帽子、手袋などを整備した。 ●スノーレンジャーの活動として、通常の除雪作業の他、家屋周辺の点検、冬期の声かけ、地域外との交流（雪まつり、とんど神事）を行った。
主な成果	●依頼に応じて個人で対応していたスノーレンジャーの活動を、窓口を定めて連絡体制を整えることで、組織的な活動へと進化させることができた。 ●祭りや神事と組み合わせ、地域外との交流の要素を取り入れた。

安全作業講習会

整備した除雪作業用品

スノーレンジャー登録者

１１地区の基礎情報

NO	事例名	実施主体	実施地域	地方							人口規模(*1)					活動分類																					活動開始年	連絡先（電話番号）
																	活動場所							組織づくり		ボランティア属性				料金										
				北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	1万人未満	1～3万人	3～10万人	10～30万人	30万人以上	計画づくり	要支援者宅	事業所	公共施設	バス停	道路・歩道	通学路	その他	活動団体	ボラセン	学生	企業	行政・団体	地区内	広域	有償	安全対策の検討	シンポジウム等	人材派遣	交流イベント	冬期居住	技能伝承・人材育成	IT活用	助成制度		
事例①	異文化交流 ×除雪ボランティア	(株)北海道グローバルリンクス	北海道 岩見沢市 (旧栗沢町)	○							○						○													○						○					H28	(株)北海道グローバルリンクス 011-222-7710
事例②	かみふらの スノーバスターズ	社会福祉法人 上富良野町社会福祉協議会	北海道 上富良野町	○								○					○									○	○	○				○									H5	社会福祉法人 上富良野町社会福祉協議会 0167-45-3505
事例③	流雪溝による 地域活性化 ケーススタディ	苫前町まちづくり企画	北海道 苫前町	○							○										○									○						○					H28	苫前町まちづくり企画 0164-65-3077
事例④	市内学生 ボランティア連携	弘前市 防災マイスター連絡会	青森県 弘前市		○									○							○					○						○									H28	弘前市 防災マイスター連絡会 0172-89-2125
事例⑤	上の山 まごころ除雪隊	滝沢市上の山自治会	岩手県 滝沢市		○								○								○			○					○		○										H26	滝沢市上の山自治会 019-687-3334
事例⑥	S.S.S.を介した “労力交換”事業	鶴岡市三瀬地区自治会	山形県 鶴岡市		○									○			○													○										H28	鶴岡市三瀬地区自治会 0235-73-2001
事例⑦	日向ささえあい 除雪ボランティア	日向コミュニティ振興会	山形県 酒田市 (旧八幡町)		○						○						○									○			○	○		○			○		○			H24	日向コミュニティ振興会 0234-64-4913
事例⑧	地域内外の除雪 ネットワークづくり	社会福祉法人 榛東村社会福祉協議会	群馬県 榛東村			○						○										○							○											H28	社会福祉法人 榛東村社会福祉協議会 0279-55-5294
事例⑨	みやま雪普請隊	一般社団法人 伊自良の里振興協会	福井県 福井市 (旧美山町)				○				○								○											○										H28	一般社団法人 伊自良の里振興協会 0776-21-2216
事例⑩	鬼無里 Pride Project	鬼無里地区 住民自治協議会	長野県 長野市 (旧鬼無里村)					○			○						○		○						○	○			○	○		○					○			H27	鬼無里地区 住民自治協議会 026-256-2213
事例⑪	スノーレンジャー	スノーレンジャー	島根県 飯南町 (旧赤来町)							○	○						○												○		○									H21	スノーレンジャー事務局 0854-76-3341

*1 市町村合併前の旧市町村単位の人口規模を表す。